



慈林小だより



令和7年度 1月号 令和8年1月8日(木)

笑う門には福来たる

校長 石原 昌治

明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって良き年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。今年は、十二支の中において午年（うまどし）となりますが、午年は、成長や成功・繁栄のシンボルとして、一年間みんなが笑顔でいられるとても縁起が良い年とされています。本日の3学期始業式では、笑顔の子どもたちと再会することができ、私も思わず安堵の笑みがこぼれました。

さて、笑顔といえば「笑う門には福来たる」という有名なことわざがあります。笑いの持つ力を表す言葉として、古くから親しまれてきた言葉です。2学期終業式では、本校職員がこの言葉を児童に贈りました。一説によると、この「門」とは、「家族」や「一族」の意味を表すことから、家族みんなで笑って福を呼ぶ「福笑い」が、縁起の良い正月の遊びとして定着したそうです。

パナソニックホールディングス（旧松下電器産業等）の創業者で、経営の神様と呼ばれた故 松下幸之助 氏が「笑顔は万能薬」というほど、笑うことは、人間にとって大切な行為です。最近では、笑うことが心や体に良い影響を与えることが医学的に実証されつつあります。

「笑い」はこころを軽やかにして、つらい日々を乗り越える力をつけてくれます。どんなにシリアスに見える出来事でも、見方を変えると、笑える側面があるもの。それに気づくと、物事がグッと楽になるのです。（中略）「笑い」は周りの人とリラックスした関係を築く上で、とても役に立ちます。

厚生労働省HP「こころもメンテしよう」～若者を支えるメンタルヘルスサイト～ より

大切なのは、人をからかったり、悪ふざけをしたりする笑いではなく、周りの人や自分を励ましたり、温かくしたりする前向きな笑いが、人の幸福感を高めていくのだと思います。

今年度、本校は慈林「笑楽好(しょうがっこう)」をキャッチフレーズとしています。児童はもちろん、本校に関わる全ての人が、同じ「笑う門(チーム)」として、ウェルビーイングがさらに高まっていく年となりますよう、変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様にとって 新たなご縁が馬(うま)れる 素敵な一年になりますように！

楽しいから笑うのではない 笑うから楽しいのだ

ウィリアム・ジェイムズ(夏目漱石に大きな影響を与えたアメリカの哲学者・心理学者)